

ブドウ黒とう病情報第1号

令和5年4月28日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

初発がやや早いため、適期を逃さず防除しましょう！

1 ブドウ黒とう病の発生状況

4月下旬に行った巡回調査（9地点、18ほ場）の結果、複数のほ場でブドウ黒とう病の発生を確認しており、**初発がやや早い状況**です。

本病は結果母枝や巻きひげなどの組織内で越冬します。令和4年6月下旬に行った巡回調査（9地点、18ほ場）において、本病の発病新梢率は過去10年で最も高い状況でした。そのため、**本病原菌の越冬量が多くなっている可能性があります。**

また、本病は、病斑に分生子を形成し、雨滴と共に感染を繰り返します。4月27日名古屋地方気象台発表1か月予報によると向こう1カ月の降水量は平年並か多く、今後、発生量が増加する可能性があるため、注意が必要です。

2 防除対策

- (1) 下表を参考に防除を実施しましょう。
- (2) シヤインマスカットは巨峰より本病に弱いため、特に防除を徹底しましょう。
- (3) 本病は病斑に分生子を形成し、雨滴とともに感染を繰り返します。特に、萌芽したばかりの軟らかい新梢や新葉は本病に感染しやすいため、発病部位は見つけ次第除去し、園外へ持ち出し適切に処分しましょう。
- (4) スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。

表 ブドウ黒とう病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
デランフロアブル※	ジチアノン	落弁期まで 但し、収穫75日前まで	2回以内	M9
ジマンダイセン水和剤	マンゼブ	収穫45日前まで	2回以内	M3
アリエッティC水和剤	キャプタン、ホセチル	収穫30日前まで	3回以内	M4、P7
カナメフロアブル	インピルフルキサム	収穫前日まで	3回以内	7
スクレアフロアブル	マンデストロビン	収穫前日まで	3回以内	11

※新梢伸長期の散布は葉に葉害を生じるおそれがあるので注意すること。

また、使用時期に注意すること。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdfを参照する。

農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。